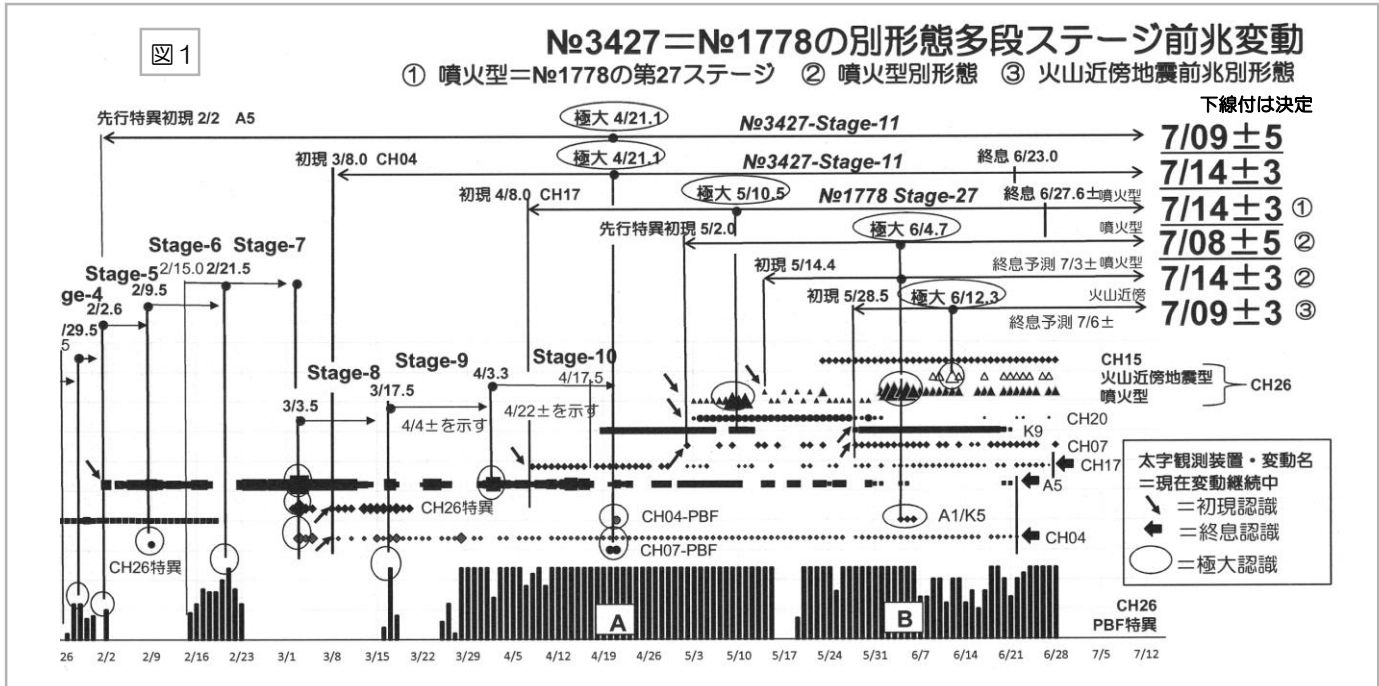


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

4/21極大に対する前兆変動 終息認識 ➡ 7/14±3発生の可能性示す
5/10極大に対する前兆変動 終息認識 ➡ 7/14±3発生の可能性示す



表題のとおり、4/21.1極大に対し、6/23.0 (A5・CH04) が終息認識。5/10.5極大に対し、6/27.6 (CH17) が終息認識です。これらの関係から「極大～終息」の関係経験則 $T_{map}:T_{pp}=3.9:1$ を使用して計算しますと、どちらも7/14±3 時期を示します。図1右端記載の太字の観測装置 (CH15・CH26) だけが現在前兆変動が継続出現している観測装置となります。CH26のPBF特異はAとBに分かれているように見えます。Aは4/21.1極大に対応認識。Bは6/4.7極大に対応しているように見えます。今後は残る極大6/4.7と6/12.3に対する前兆変動終息が観測できれば発生時期決定となります。ちなみにCH15特異は5/10.5と6/4.7の火山噴火型極大のちょうど中間時期から出現しています。今後の前兆変動終息が確認されるか観測を続け、続報で報告させて頂きます。



- 推定領域：図2の太線内領域＝大枠推定領域
※図2の斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
※震源が火山近傍領域を含む可能性考えやすい
- 推定規模：M8.0±0.3
主震が単発の場合＝M8.0±0.3
複合地震の場合＝M7.4±0.3+M7.3±0.3他等
- ※噴火型前兆変動が観測されているため震源に近い火山が地震発生に伴い噴火する可能性も否定困難ですが過去例と異なるため、確実に噴火するとは断定困難
- 推定時期：7/14±3の可能性で検討中
※前兆終息を確認して発生日計算修正予定
- 推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
○ 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3